

安藤忠雄（あんどう・ただお）

1941年大阪生まれ。建築家／東京大学名誉教授。

世界各国を旅し独学で建築を学び、1969年に安藤忠雄建築研究所を設立。代表作に「住吉の長屋」、「光の教会」、「ピューリッツァー美術館」、「地中美術館」、「こども本の森 中之島」、「和美術館」、「ブルス・ドゥ・コメルス・ピノー・コレクション」など。

1979年日本建築学会賞、1993年日本芸術院賞、1995年プリツカー賞、2002年米国建築家協会（AIA）ゴールドメダル、2003年文化功労者、2005年国際建築家連合（UIA）ゴールドメダル、2010年ジョン・F・ケネディセンター芸術金賞、後藤新平賞、文化勲章、2013年フランス芸術文化勲章（コマンドゥール）、2015年イタリア共和国功労勲章グランデ・ウフィチャーレ章、2016年イサム・ノグチ賞、2021年レジオン・ドヌール（コマンドゥール）叙勲など受賞多数。イエール大学、コロンビア大学、ハーバード大学の客員教授、東京大学教授を歴任し、現在東京大学名誉教授。

1991年ニューヨーク近代美術館、1993年ポンピドゥーセンター（パリ）、2017年国立新美術館、2018年ポンピドゥーセンター、2021年復星（Fosun）芸術センター（上海）、和美術館（佛山）にて個展開催。

著書に『建築を語る』（1999）、『連戦連敗』（2001）、『安藤忠雄 仕事をつくるー私の履歴書』（2012）、『住宅』（2017）など。

グザヴィエ・ヴェイヤン

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <http://www.veilhan.com/>

グザヴィエ・ヴェイヤンは、1980年代後半より、多様な媒体（立体作品、ペインティング、インスタレーション、パフォーマンス、映像、写真）を用いて古典主義と高度なテクノロジーの両者に触発された作品群を制作し、高く評価されてきました。ヴェイヤンの展覧会は私たちの知覚に一石を投じるとともに、しばしば発展的で歩行可能な空間を創出し、鑑賞者を作品内の”役者”へと昇華させます。例えば、「Veilhan Versailles」（2009年）、《Architectones》シリーズ（2012~2014年）、第57回ヴェネチア・ビエンナーレにおけるフランス館への提案《Studio Venezia》（2017年）がこの好例です。

ヴェイヤンの作品は公共の場に展示されることが多く、立体作品はパリ、ストックホルム、ニューヨーク、上海、ソウルなど、フランス国内外の数多く都市空間の一部となっています。

また、ヴェイヤンの作品は、ポンピドゥーセンター（パリ）、ジュネーヴ近現代美術館（ジュネーヴ）、フィリップス・コレクション（ワシントンD.C.）、森美術館（東京）、MAAT（リスボン）など、世界各国の様々な施設にて展示されてきました。

略歴

1963 フランス、リヨンに生まれる

現在 パリ在住

主な個展

2021 「Chemin Vert」ペロタン（東京）

2020 常設インスタレーション《La Statue de Harajuku》ウィズ原宿（東京）

2017 《Studio Venezia》第57回ヴェネチア・ビエンナーレフランス館（ヴェネチア, イタリア）

2011 「Free Fall」エスパス ルイ・ヴィトン（東京）

2009 「ヴェイヤンヴェルサイユ」ヴェルサイユ宮殿、（ヴェルサイユ、フランス）

2002 映像作品《Le Film du Japon》現代美術センターCCA北九州（福岡）

1998 インスタレーション《La Forêt》現代美術センターCCA北九州（福岡）

主なグループ展

2015 「シンプルなかたち展：美はどこからくるのか」森美術館（東京）

2011 「フレンチ・ウィンドウ展：デュシャン賞にみるフランス現代美術の最前線」森美術館（東京）